平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業

2020年に向けたテレワークで紡ぐデータキャピタル活用流動創生事業

一般社団法人高梁川プレゼンターレ（岡山県倉敷市）

コンソーシアム名	高梁川流域テレワーク推進コンソーシアム				
コンソーシアム参加機関名（下線は代表機関）	● 一般社団法人高梁川プレゼンターレ ● 倉敷芸術科学大学 ● 倉敷市 ● 一般社団法人日本テレワーク協会				
地方移動者数	従業員：５人	個人：０人	地元ワーカー数	従業員：３人	個人：２９人
事業概要	倉敷美観地区近隣の、古民家１棟を活用し、「住吉町の家 分福」を整備する。 2階は「コンテンツ系事業者向け」及び「IT事業者向け」のサテライトオフィスとし、1階は、サテライトオフィス利用者及び地元テレワーカーが利用可能なミーティングスペース及び作業スペースとする。 　また、本事業においては、倉敷市が平成28年度「テレワークで紡ぐデータキャピタル事業」で整備した、テレワーク支援システムやオンライン教育コンテンツ等を最大限活用しつつ、中枢連携都市圏内の近隣他市のテレワーク拠点と連携する。				

美観地区近隣の古民家を活用した倉敷らしいテレワーク拠点

中枢連携都市圏のテレワーク拠点連携

平成28年度から推進されているテレワーク推進事業資産の活用

平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業

2020年に向けたテレワークで紡ぐデータキャピタル活用流動創生事業

一般社団法人高梁川プレゼンターレ（岡山県倉敷市）

■整備した拠点の概要

・名称：住吉町の家 分福（ぶんぶく）

・住所：岡山県倉敷市中央2丁目13-3

・拠点へのアクセス：JR倉敷駅より徒歩10分

・利用対象者：㈱ラビリング、㈱フットプリンツ、㈲三栄
地元テレワーカー、来訪者、施設管理者

外観

・収容人数：42名
（1F）貸会議室6名、コワーキングスペース6名、プレゼンテーションルーム4名
備品使用スペース2名、商談スペース6名、施設管理スペース1名
（2F）貸スタジオ2名、専用会議室4名、専用通信室3名、サテライトオフィス①2名
作業室4名、サテライトオフィス②2名

内観

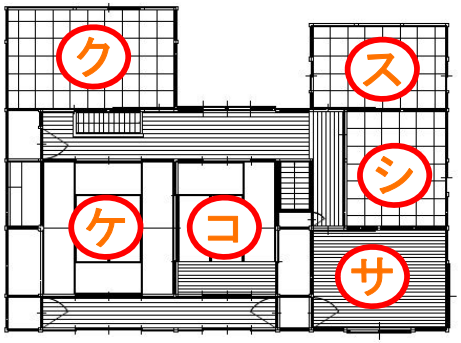
・整備拠点で可能な業務
テレワーク業務、コンテンツ開発、テレビ会議、プロジェクト形成

■整備完了後の取組内容の概要

・3月1日より、進出企業3社（㈱ラビリング、㈱フットプリンツ、㈲三栄）がサテライトオフィスに入居を開始し、地方移動者数は5人（㈱ラビリング1人名、㈱フットプリンツ2人、㈲三栄2人）、地元雇用者は3人（㈱ラビリング）となった。
・3月1日～3月4日に、ふるさとテレワーカー向けの勉強会を開催し、59人が参加した（倉敷市「インテリジェント高梁川流域インテリジェントICT実装事業」の一環として実施）。参加者のうち、29人がふるさとテレワーカーとして、本事業にて整備したシステムへ登録し、そのうち4人がサポートを受けながら4件の新規事業（ドローン事業、IT勉強会事業、ジャイアントペーパーフラワー普及事業、観光プログラム開発事業）に取り組むこととなった。
・3月1日～3月4日に、拠点のお披露目会を地元企業や地域住民向けに開催し、171人が参加した。

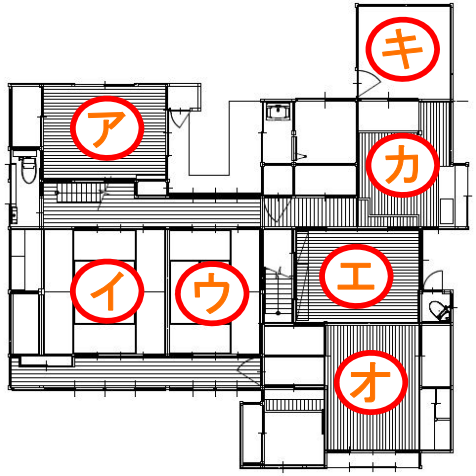
（参考①）整備した拠点について

（2F）
㋖貸スタジオ
㋕専用会議室
㋗専用通信室
㋙サテライトオフィス①
㋚作業室
㋛サテライトオフィス②



㋕専用会議室（手前）
㋗専用通信室（奥）
「倉敷らしいテレワーク」をテーマに、和室はそのまま残して改修を行った。
二つの部屋は襖を外して一体的に使うことも可能。

（1F）
㋐貸会議室
㋑コワーキングスペース
㋒プレゼンテーションルーム
㋓備品使用スペース
㋔商談スペース
㋕施設管理スペース
㋖ガレージ



㋔商談スペース
カフェのような落ち着いた空間で、商談などを行うことができる。
元々残っていた掘りごたつの中が見える形でアクリル板をはめ込んでいる。

住吉町の家 分福
WEBサイト画面
https://bunbuku.org/

「分福茶釜」にちなみ、倉敷芸術科学大学にロゴ・サインの制作依頼を行った。

分福
satellite office

（参考②）整備完了後の取組内容について

・拠点の運営計画
サテライトオフィスでは、首都圏の企業3社が入居を進めており、3月中に入居完了となる予定。他、地元企業1社も入居中。
3月1日～3月4日に、ふるさとテレワーカー向けの勉強会を開催し、59人が参加した（倉敷市「インテリジェント高梁川流域インテリジェントICT実装事業」の一環として実施）。参加者のうち、29人がふるさとテレワーカーとして、本事業にて整備したシステムへ登録し、 そのうち4人がサポートを受けながら4件の新規事業（ドローン事業、IT勉強会事業、ジャイアントペーパーフラワー普及事業、観光プログラム開発事業）に取り組むこととなった。
・3月1日～3月4日に、拠点のお披露目会を地元企業や地域住民向けに開催し、171人が参加した。

3月2日（金）に開催したお披露会にて、入居企業の商品であるジャイアントペーパーフラワーを展示し、同企業のコンテンツである和楽器を活用した着地型観光に向けた演奏会を行った。

3月3日（土）に開催したテレワークセミナーの様子。（社）日本テレワーク協会主席研究員の中本英樹氏を招聘し、テレワークについての説明や、実際に地方にいるテレワーカーとオンライン会議でつないで参加者と意見交換等を行った。

・地方移動者数や地元ワーカー数の年度ごとの目標人数

	項目	H29年度目標	H29年度実績（3月20日見込）	H30年度目標	H31年度目標
1	地方移動者数	5人	5人（100%）	8人	9人
2	拠点利用者数	100人	300人（300%）	300人	360人
3	ふるさとテレワーカー数	24人	29人（120%）	36人	48人
4	新規事業立ち上げ数	3件	4件（133%）	3件	3件
5	地元雇用者数	3人	3人（100%）	3人	5人